

簡易郵便局を訪ねて

(132)

明和竹川簡易郵便局

(三重県明和町)

斎王ゆかりの地でこれからも続く簡易局を目指して

は存続できませんので本当にありがたい限りです。いただいた絵手紙などは窓口に並べ、季節に合わせ替えたりしています。

この間はお客さまが伊勢にある「赤福本店」の建物を寄木細工で作ってくださり、窓口に飾させていただきました。他のお客さまが気づいて「これ、本店やね」とお声を掛けただくこともあります。

会話のきっかけにもなっています。局の入り口は自動ドアになつているのですが、ドアが開いてお客さまがお見えになつた瞬間から補助者の方と全員でご挨拶するようになります。

心がけています。最近は振り込め詐欺などの犯罪も増えて、当局でも注意を促した事例もあり、郵便局の重要な役目だと思っています。またコンプライアンスの徹底は決して欠かせないことですし、その心構えはお客さまに向き合う姿勢にも反映されしていくものだと思っています。

信頼を損なわず、これから四十年、五十年先も局を残していくよう、努めていきたいと思います。

住所 〒515-0242 三重県多気郡明和町竹川東裏二七四



森下
局長
春美

地域で頑張っている簡易郵便局を紹介します。



斎王まつり



明和竹川簡易郵便局外観

当局の前身は明和郵便局で、母が職員として働いていました。その後移転の話があり、母は退職して受託者となり一九九三年に明和竹川簡易郵便局を開局しました。私は補助者として手伝い、二〇〇九年に受託者変更をして今年で十七年目になります。

当局のある竹川地区は、飛鳥時代から伊勢神宮に仕えていた「斎王」の住まいであった場所で、日本遺産にも指定された歴史のある地域です。毎年六月に開催される斎王まつりは今年で四三回目を迎えます。伊勢神宮へも二〇キロほど近く、大河ドラマ「光る君へ」の影響もあり、観光で訪れる方が多くなっています。

観光の賑わいもありますが、いつも当局をご利用になるお客様は地元の方で、局に絵手紙やお花を持ってきてくださることもあります。簡易局は地元の方なくして



窓口に飾ってあるお客さまからいただいた絵手紙や寄木細工



窓口の様子



明和竹川
簡易郵便局